

**令和元年度 地域づくり部会
検討状況報告書**

令和2年2月12日更新

部 会 員	長岡市福祉課支援係(長谷川、大崎、伊野、山田) <input type="checkbox"/> 地域生活支援センターサンスマイル(大倉) <input type="checkbox"/> 障がい者支援センターあさひ(金子) <input type="checkbox"/> 長岡市障害者基幹相談支援センター(両田、佐藤、五十嵐、布川) ※ <input type="checkbox"/> は事務局
取組方針	地域生活支援拠点等の整備における「専門的人材の確保・養成」、「体験の機会・場」機能の検討、検証を行う。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門的人材の確保・養成」、「体験の機会・場」機能の検討を2班に分かれて同時進行で実施、まずは現状確認を行う。 ・「相談」、「地域の体制作り」については、相談体制部会と連動して検討を行う。 ・長岡市としての、地域生活支援拠点等の整備の全体の方向性及び、整備に向けた具体的取り組み内容を決定できるようにする。
開催日	取組・検討内容
【第1回】 令和元年5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の協議会の体制について確認。 ・活動方針に沿って「専門的人材の確保・養成」と「体験の機会・場」の2グループに分かれて取り組み内容について検討し、相互の内容について確認と共有を図る。 ・「専門的人材の確保・養成」 確保の部分は課題が大きく難しいため、養成を中心に取り組むこととした。こういった人材の養成が必要かは実態調査のアンケートを基に進めていく。 ・「体験の機会・場」 利用を前提とした体験利用以外の体験(お試し)機会という発想や意識が低いため、周知啓発をしていくことや、体験の実施が事業所の持ち出し(ボランティア)になっているため加算等の算定、対象者(地域、入所、入院等)ごとのニーズの違いなど、まずは実態について情報収集していくこととなる。
【第2回】 令和元年6月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門的人材の確保・養成」 実態調査の素案を基に具体的内容の検討を行う。対象は入所、生活介護、ショートステイ、グループホームとし事業所単位で実施。各事業所でこういった研修に参加しているか、人材育成に取り組んでいる事業所を確認のうえ、こういった点が求められるのかを確認していく。 ・「体験の機会・場」 どこで誰と暮らしたいかを考える(判断)する機会という視点を基に、まずは相談支援事業所へニーズと実態把握のためのヒアリングを実施。内容の素案は支援係が作成。実態調査を丁寧に行い、こういった体験の機会と場が必要かを明確にしたうえで進めていくこととした。

<p>【第3回】 令和元年7月9日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門的人材の確保・養成」 素案をもとに詳細を検討した。調査票作成要領及び調査票の他に、地域生活支援拠点等の説明資料をつける。 『事業所内・法人内及び職場外で必要な取り組みを実現するための、行政で必要な取り組み』を回答してもらうこととし、そのアンケート結果を材料に、市としてどういったバックアップができるのか検討する。 ・「体験の機会・場」 素案をもとに検討した。調査対象は、居住系サービスの体験利用ニーズ（「どこで暮らしたいか」を選択するための体験）とした。利用を前提とした体験のニーズや、日中活動系サービスの体験ニーズは対象としない。
<p>【第4回】 令和元年9月10日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門的人材の確保・養成」 実態調査の結果から、各法人で様々な研修を実施していることや、今後求められている取り組み等を確認した。 ・「体験の機会・場」 実態調査の結果、親亡き後や自立を目的にした体験のニーズはあるが、受入先がないというケースが多いことが分かった。
<p>【第5回】 令和元年10月8日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門的人材の確保・養成」 実態調査結果をどのようにまとめていくかを検討した。また、実態調査の回答者へも結果を返すこととした。 ・「体験の機会・場」 実態調査結果をどのようにまとめていくかを検討した。
<p>【第6回】 令和元年11月12日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門的人材の確保・養成」 実態調査のまとめを作成。実態調査の結果から、各法人の強みを活かし、各法人で実施している研修等をつなげることで、地域全体の底上げを図っていくという方向性を考えている。 ・「体験の機会・場」 実態調査のまとめを作成。結果を受けて、既存の資源を活用しながら、利用できないという不足のニーズを充足していきたい。そのためにまずは、事業所側に地域生活支援拠点等を知ってもらう必要がある。
<p>【第7回】 令和2年1月14日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の地域づくり部会の振り返りと評価を実施した。
<p>【第8回】 令和2年2月10日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回の振り返りと評価をもとに、来年度の地域づくり部会の取り組み内容を検討した。
<p>今後の検討の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は地域生活支援拠点の5つの機能について検討と検証を実施。 ・相談体制部会においても検討の話が出始めていること、今年度から委託相談支援の地区担当制を導入したことを含め、それぞれの動きを見ながら令和2年度末の体制整備に向けて進めていく方向。
<p>運営会議への伝達事項等</p>	